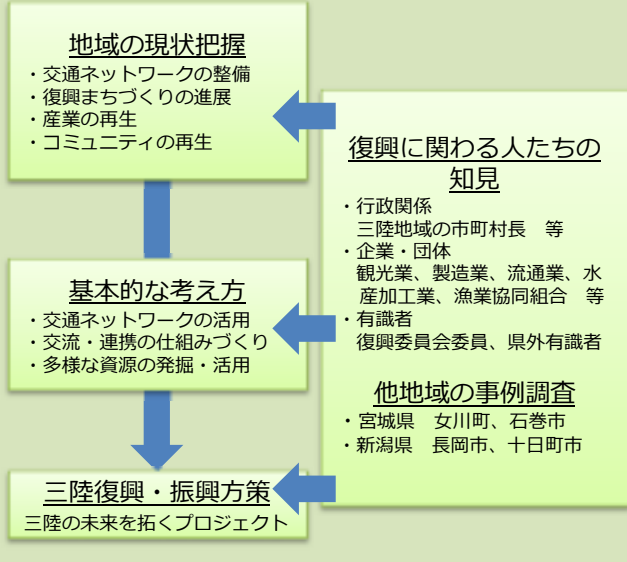


三陸の未来を拓く提案 三陸復興・振興方策調査(概要)

調査の趣旨

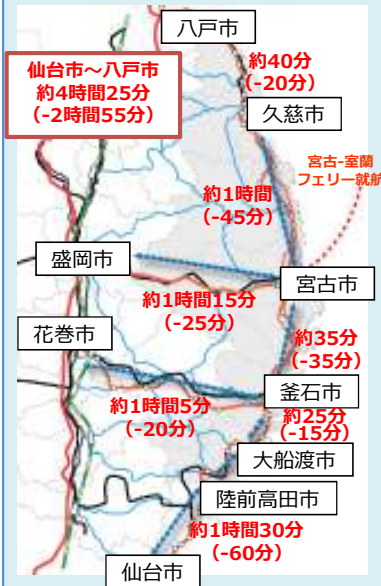
●本報告書は、中長期的な視点や広域的な観点に立ち、様々な分野の方からご意見を伺いながら、新たな三陸地域を築いていくためのアイデアや事例をプロジェクトの形で整理したものであり、市町村や企業・団体をはじめ多くの皆様が三陸の復興や振興に向けた取組を検討し、県民的な議論を深めていくための参考としていただきたいもの

●県としても平成28年度に行う第3期復興実施計画の策定過程において検討し、実行に移していくもの



現状と課題

●交通ネットワークの整備と復興まちづくりの進展



(1) 復興道路

・「三陸沿岸道路」、「東北横断自動車道釜石秋田線(釜石～花巻)」、「宮古盛岡横断道路」の整備がかつないスピードで進展

(2) 港湾

・宮古～室蘭間を結ぶフェリー定期航路の開設が予定
・釜石港では、復興道路の整備進展等に伴い、コンテナ取扱量が順調に増加、韓国・中国を結ぶ国際コンテナ定期航路開設の動きもある

(3) 鉄道

・JR山田線宮古～釜石駅間が、復旧後の平成30年度以降に三陸鉄道に運営が移管予定
・三陸鉄道の利用客数は、通学・通勤の利用者が減少し、震災前の水準に回復していないが、平成26年度の観光の利用者は「あまちゃん」効果により震災前より増加

(4) 復興まちづくり

・宮古市では、市役所等を宮古駅周辺に移転する計画や、岩泉町では岩泉小本駅周辺に公共施設を整備するなど、交通結節点を拠点とした復興まちづくりが進展
・大船渡市の「三陸サイコー商店会」が本設としてオープン
・山田町、陸前高田市等では「まちなか再生計画」が認定されるなど、各地で被災した商店街再建が本格化

各都市間の起終点は、各都市最寄りのICとしている
現況の所要時間はH22道路交通センサスより算出(データの無い区間は規制速度等)
復興道路整備区間は、道路構造に応じた速度(V=70~80km/h)により将来の所要時間を算出

●産業の再生

(1) 産業構造

・地域経済や雇用を支え、三陸地域の特徴となっている産業は「農林漁業」「建設業」「製造業」「卸売・小売業」「医療・福祉」
・最も粗付加価値額の高い「製造業」の中では、「食料品製造業」が製造品出荷額、従業員数とも大きなウェイトを占めている

(2) 企業立地

・ものづくり企業を中心とした関連産業の集積や、水産資源等の地域資源を生かした広域的な水産加工拠点化に取り組んでおり、震災以降、新たに18件(うち製造業9件)が立地

(3) 雇用情勢

・沿岸部の有効求人倍率は平成24年7月以降、1倍台を維持。水産加工業、建設業等で人手不足が課題

(4) 水産業

・魚市場等の早期復旧により、水産加工業の事業再開率は、84.0%と他業種と比較して高い
・平成26年度の産地魚市場水揚量は震災前に対して82%、養殖生産量は同61%まで回復
・新商品の開発や商品のブランド化など新たな付加価値を有する商品づくりや、海外への輸出を含めた販路の開拓を進めるなど、新たな取組が進展

(5) 観光業

・平成26年度の三陸地域の観光入込客数(延べ人数)は、約650万人回となり、震災前(平成22年度比)の約9割まで回復
・震災後に「震災語り部ガイド」や「三陸ひとつなぎ自然学校」等、多様な取組が生まれている
・「三陸山田かき小屋」や「小袖海女センター」、「北山崎断崖クルーズ」等が復旧し、営業を再開しているほか、道の駅「高田松原」及び道の駅「たろう」が「重点道の駅」に選定

●コミュニティ

(1) 地域づくりの動き

・地域づくりの担い手として、地域住民のみならず、企業・団体や、地域外からのU・Iターンの移住者等、多様な主体が参画し、復興まちづくりや地域課題を解決する取組が表れ始めている

(2) 人口

・三陸地域の人口は、約25万人となっており、過去10年間に、約4万5千人(15.2%)減少している。東日本大震災津波により平成23年は大きく減少したものの、その後、人口減少ペースは震災前の水準と同程度になっている

基本的な考え方

1 交通ネットワークの活用
交通ネットワークの変化を三陸地域のヒトとモノの交流につなげる

2 交流・連携の仕組みづくり
三陸地域で活躍する若者、女性など個人、企業や団体の多様な主体による相互連携や支援の仕組みを整え、創造的な地域づくりを促進する

3 多様な資源の発掘・活用
三陸ならではの地域文化や自然環境、農林水産物などの多様な資源の発掘・活用による持続可能な地域社会を実現する

三陸の未来を拓くプロジェクト

A 産業

時間短縮効果を産業振興へ

目的

展開方向

取組内容

A-1 三陸まるごと直送プロジェクト

～新鮮な三陸の水産物等を復興道路で消費地に直送～

高い付加価値を持つ三陸の新鮮な水産物等を、復興道路を活用して迅速に消費地に輸送する仕組みを構築する

- ・三陸で採れた水産物を、首都圏や仙台圏等の販売店でその日の夕方に販売できる流通ルートの構築
- ・復興道路を活用し、花巻空港や仙天空港を利用することで遠隔地へも展開
- ・効率的な流通ルート構築のための荷量確保等

1 効率的な輸送方法の構築

- ・共同集荷の推進
 - ・輸送の効率化や鮮度維持に資する輸送方法の開発
- #### 2 三陸から直送する水産物の市場開拓
- ・新しい販売エリアでのプロモーションの実施
 - ・継続販売に向けたサポート



新鮮な水産物等を消費地に直送

A-2 三陸物流強化プロジェクト

～港湾と復興道路の活用による県内企業の競争力向上～

港湾と復興道路を活用した効率的な物流ネットワークを生かし、県内企業の競争力の向上と三陸地域における物流拠点の形成を図る

- ・釜石港、大船渡港の定期コンテナ航路の充実や宮古港のフェリー貨物の活用により、効率的な輸送手段を構築することにより、企業の物流にかかるコストを削減することで、県内企業の競争力が向上

1 コンテナ定期航路充実に向けた荷量の確保

- ・コンテナ貨物の集約
 - ・コンテナの効率的な活用 等
- #### 2 物流ネットワークを支える機能の確保
- ・増加する貨物に対応した港湾の機能強化
 - ・IC付近の休憩施設等の物流を支援する施設の立地促進



フェリー受入れ態勢の整備

A-3 三陸産ブランド構築プロジェクト

～生産者の意欲と所得向上に資する産地ブランドの形成～

生産者と消費者の関係の強化や総合的な商品力の向上を通して、水産物等を付加価値の高い商品として販売できる「三陸産ブランド」を確立する

- ・各地のブランドづくりに関する取組を加速し、生産者だけではなく、消費者や販売者を巻き込んだ取組を推進
- ・生産者等が連携し、高品質な商品を生産
- ・三陸地域の豊かな生産環境のPRや、消費者のニーズに応えた商品開発

1 生産者と消費者の関係強化による販売力向上

- ・生産者と消費者とのマッチングの促進
- #### 2 小売・飲食事業者の販売意欲の向上
- ・訴求力のある商品の開発と展開
- #### 3 生産者のネットワーク化による商品力の向上
- ・生産者連携によるブランディング推進体制の構築 等



生産者が消費者に直接販売

A-4 三陸産業プラットフォーム形成プロジェクト

～企業における人材・資金・経営面の課題を組織的に支援～

人材確保・育成、資金調達、経営面の課題解決のため、地域横断的な組織が、企業や地域のニーズとのコーディネート等の支援を行い、地域産業の振興を図る

- ・地域内外から人材の募集、育成、定着の支援や、地域企業が資金調達を行うための経営戦略の立案を支援するなど、地域産業の基盤を強化する横断型の支援の仕組みを構築

1 人材確保のためのシンクタンク機能の構築

- ・人材確保のためのコンサルティング支援 等
- #### 2 事業者の経営戦略構築支援・社会投資活用支援
- ・女性や若者をはじめとしたビジネス立ち上げの支援 等
- #### 3 地域資源を生かした研究開発の促進
- ・地域資源を生かしたイノベーションの創出 等



人材の共同募集説明会の開催

B 観光

アクセス性向上を交流拡大へ

B-1 食の観光コンテンツ充実プロジェクト

～三陸の豊かな水産物を生かして食の観光コンテンツを充実～

世界でも屈指の漁場である三陸沖の海の幸、雄大な大地からもたらされる山の幸を生かし、「三陸に行きたい!」と思わせる、三陸の食の魅力を生かし、交流人口を拡大する

- ・三陸の食資源を、他の地域と差別化し、個性ある食の魅力を発信
- ・多様な料理や産直等の販売方法、漁業体験等と組み合わせ、食の観光コンテンツを豊富に用意することにより、多様なニーズに対応

1 三陸ならではの食の体験型コンテンツの充実

- ・食をテーマとした複合施設の立地促進
- #### 2 食の魅力発信の核となるレストラン・リゾート誘致
- ・三陸地域の食材を生かしたレストラン等の誘致
 - ・若手シェフの受入れ体制の整備



現地でしか味わえない食の充実

B-2 三陸まるごと博覧会プロジェクト

～イベント開催を契機とした観光地としての魅力の向上～

イベント開催をきっかけとして、観光地としての交通利便性や宿泊のポテンシャルを向上し、季節毎の魅力を地域間で連携させたフィールドミュージアム型の観光地づくりを行う

- ・イベントの開催を契機に、地域資源を生かした体験型観光のメニューが各地に点在する観光地づくりを推進
- ・先進的な技術を用いた交通輸送システムの試行や、農山漁村と都市との交流の仕組みを通じた民泊を促進

1 イベントの開催を契機とした地域の魅力発信

- ・三陸での観光イベント戦略の策定・実施
- #### 2 三陸鉄道や先進技術を活用した二次交通の確保
- ・三陸鉄道を核とした二次交通の確保 等
- #### 3 民泊等の多様な宿泊の仕組みの確保
- ・宿泊観光客受入れ能力の確保 等



地域資源を生かしたイベントの開催
(参考事例: 大地の芸術祭 新潟県)
【花咲ける妻有】草間彌生
Photo by Osamu Nakamura

B-3 三陸観光マネジメントプロジェクト

～人材育成・商品開発・情報発信の戦略的な実施～

国内外から訪れる観光客が、三陸の魅力を感じ楽しんでもらえるよう、地域が連携して個性的な観光メニューの充実や道の駅等の整備による周遊観光の充実を図る

- ・地域それぞれの観光メニューを提供する事業者が連携し、それぞれが個性を持ちながら三陸として一体感を持つ魅力ある商品を開発
- ・「三陸」が一丸となって、訪日外国人や、修学旅行、個人、企業・団体等、それぞれのニーズに合わせた効果的なプロモーションを展開

1 個性的な観光メニューの充実

- ・DMOによる観光リーダーの連携促進 等
- #### 2 三陸が一体となった観光客誘致活動
- ・広域的な観光客の受入れ調整やプロモーションの実施
 - ・教育旅行等の企画旅行のコーディネート
- #### 3 道の駅等の整備による周遊観光の充実
- ・道の駅の整備と連携による周遊観光の促進



教育旅行のコーディネート

C コミュニティ

生活圏拡大を地域活性化へ

C-1 地域間交流のまちづくりプロジェクト

～地域の人々が交流しながら快適に生活できる環境の形成～

復興道路の整備や鉄道の復旧等による生活圏域の変化に対応し、生活サービス機能の利便性の向上を図り、地域の人々が快適に生活できる環境を形成する

- ・日常生活に不可欠な医療、福祉、教育、交通、購買・消費、雇用等生活サービス機能について、広域的な視点で維持や充実を図っていくとともに、生活圏としての一体感を醸成するため、地域住民の交流を促進

1 地域交通システムの構築と利用促進

- ・三陸鉄道やバス事業者の連携による利便性の向上 等
- #### 2 生活サービス機能の共同相互利用の推進
- ・生活サービス機能の充実と広域的利活用の推進 等
- #### 3 地域内交流の促進
- ・ライフステージに合わせた人的交流の促進



三陸鉄道を活用し利便性を向上

C-2 開かれたまちづくりプロジェクト

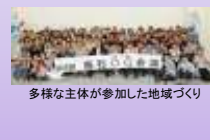
～地域人材と外部人材による地域づくりの実働部隊を編成～

人材が広域で活躍できる仕組みや移住者の受入れ態勢づくり等を通して、地域内外の多様な人材の力を三陸地域全体の地域づくりに生かしていく

- ・地域に居住する人や外から来た人、また、若者や女性など多くの人が、地域で協働し、刺激し合って、地域づくりに取り組み、コミュニティの再生や新たな地域の産業振興につながる好循環が生まれていく仕組みを構築

1 地域づくりの人材が広域で活躍できる仕組みの構築

- ・若者や女性等の地域づくり人材のネットワーク構築 等
- #### 2 来訪者や移住者の受入れ態勢の充実
- ・移住・定住につなげる受入れ態勢づくり 等
- #### 3 新たなライフスタイルの発信
- ・三陸ならではの多様で豊かなライフスタイルの発信



多様な主体が参加した地域づくり